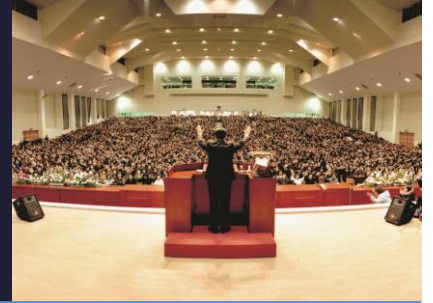


恵みと真理のニュース



2019年06月の五次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

[証]



日々救いの喜びを享受し、主の平安で充満な人生を生きるようにしてください。主に感謝と賛美を捧げます

私は小さい田舎で9人兄弟の中で末子に生まれ育ちました。まず、イエス様を信じた姉について村にある教会を通い始め高校まで教会に出席しました。聖歌隊で賛美するのが好きでもっと熱心に教会に通いました。しかし、聖書御言葉に基づいた信仰を持たなくて社会に出て職場生活をしながら信仰生活をおろそかにしました。休みたい心で主日も教会に行けなくて家にいる日が多かったです。結婚してイワン市で信仰生活をはじめました。友達や知り合いの人がいないところで旦那が会社から退職することだけを待ちながら日々をさびしく過ごしました。日々、孤独と寂しさが増してゆきました。そうするうちにある日、ベランダで外を眺めると遠くある教会が目に入りました。熱心に教会に通ったことが思い出になりました。説教をしてくださる牧師、聖書と賛美歌を教えた先生、親切と愛を与えてくださった教会の執事達の顔が思い浮かびました。教会に行きたくて村にある教会を探しました。もし、異端に属した教会ならいけないと思い、怖れて信仰生活を正しくする教会で導いてくださるのを願って祈りました。

数日が過ぎなくわたしの家の玄関をたたく音が聞こえました。伝道をしに来た恵みと真理教会の区域長と伝道士でした。執事と伝道士から伝道されアンヤン聖殿に行き礼拝に参席しました。初めて聴く当会長の牧師の説教に恵まれて感動を受けました。聖歌隊の賛美も恵まれて礼拝の雰囲気もよかったです。神様がわたしの祈りに答えてくださったと思いました。妊娠していた私を伝道した区域長もまだ子供が幼いときだったので区域長について区域礼拝に熱心に参席しました。子供を生んだ後、サンボンで引越しました。引越しをしてすぐ私たちの家に、首区域長と区域長が伝道しに来られました。嬉しくて感謝でした。区域長達が毎日のように聖書を伝えてくださってその時間がとてもよく

ていつ来られるかと待ちました。年子を生んで育てて体が疲れていて旦那まで遅く退勤してうつ病になったのですが、彼らの方々の愛を見せてくださって多くの慰めと力になりました。首区域長と区域長の助けで子供達二人をつれて礼拝を捧げて愛した区域長祈り会も参席することが出来ました。子供達が幼くて大変なことが多かったのですが月曜祈り会と金曜祈り会まで全ての礼拝を参席して御言葉を聴き祈って賛美するのが私に一番喜びになりました。

子供達が大きくなって教会学校に通うようになった時、教会学校の行事で振り付けをしながら賛美する先生の姿で大きく恵を受けて教会学校の教師で奉仕したい希望が出来ました。神様に祈りをする中で隣にある区域長が勧めてくださって勇気を出して感謝の心と教師奉仕を始めました。上の子が6歳になって幼稚部の聖歌隊に建つようになったとき言葉で表現できないほど嬉しくて感謝でした。

熱心に福音を伝えながら努力しても旦那がイエス様を信じなくてわたしの心が痛かったです。わたしの誕生日が来ると旦那にわたしの誕生日のプレゼントで男性区域礼拝に一度参席するように頼みました。そうしたら、旦那が喜んで聞いてくれました。長老と区域長達がよく導いてくださって旦那が区域礼拝に参席し始めて決心して教会学校に出席するようになりました。以後、旦那は長老から進められて訪問部に属して教会で奉仕する生活をして執事の職分を受けました。そのように私達は自分が属した部署で奉仕しながら熱心に神様を仕える家族になりました。

旦那がキンポで職場を通うようになり私たちの夫婦は週末夫婦になりました。すると、旦那はいつから教会生活を疎かにしました。私は私たちの家庭生活と旦那の礼拝生活のため決心してキンポで引越しました。そうして、旦那が信仰を回復して礼拝中心の生活をするよう切に祈っています。神様が私たちの家族に豊かな恵みを与えてくださいます。息子と娘がキンポ聖殿に来て神様の恵みと愛をたっぷり受けて信仰生活をしています。

サッカーが大好きな息子が何度も事故にあってその時ことに神様が癒しの恵みを与えてくださいました。運動が好きで息子は高校2年1学期まで勉強を疎かにしました。そうしながら、2学期に入って決心して祈りながら学校の勉強と共にインターネットの講義を聴きながら全力を尽くして入試を準備しました。その結果、受験

に期待以上の成績を得て、願書を出した三つの大学を全部合格しました。4年奨学生で合格して他の大学は勉強が上手な学生が望む大学でした。神様が共におられ助けてくださった結果でした。息子は祈りをして決定した大学に進学して神様が導いた夢をかなうため努力しています。

感謝することは神様は父と母を救ってくださいました。父は死の直前にイエス様を受け入れ天国に召されました。田舎で農業をした母も体が楽になった時決心をさせてわたしの家に来るたびに教会へ一緒に行きました。母の病気が酷くなった時私はあらかじめキリスト教で葬式をしようと準備をしました。兄達がイエス様を信じなかったので母の葬式をキリスト葬式で行うように神様に祈りました。その後、兄達に話したらみんなそうしようと思いました。母が教会に通っていて病弱な時でも教会に行ってくると何がそんなに良いか笑って平安な顔になってわたしの意見に従ってくれました。

神様の摂理が驚きました。母はいつ痛かったかのように平安な顔で天国に召されました。葬式の全ての手続きに神様が共におられ助けてくださって寒い冬でしたが三日間ずっと暖かい春のような暖かい天気の中で葬式を行うことができました。その後、イエス様を信じない兄達と3人の心で聖霊が感動を与えてくださり、働いてくださることが感じられます。わたしの家族の全ての人がイエス様を受け入れるその日まで期待して希望して祈ります。

私が恵みと真理教会に通った後、今日に至るまで与えてくださった神様の恵みに感謝と感激をたくさん受けました。私にもとても大きい愛を与えてくださいました。神様の恵みを考えるほど胸がいっぱいになり涙が出ます。

あなたの神、主を愛し、御声を聞き、主につき従いなさい。それが、まさしくあなたの命であり、あなたは長く生きて、主があなたの先祖アブラハム、イサク、ヤコブに与えると誓われた土地に住むことができる。

〈申命記 30 : 19, 20〉

過ぎ越し礼拝と新年祝福祈り会で受けたこの御言葉を積極的に実践する生活をします。主が再び来られるその日までいつも目を覚ましていて、何よりも神の国と神の義を求め人生を生きて行きます。ハレルヤ!



[信仰コラム]

このようなお祈り (3)

“...わたしが陰府の腹の中から叫ぶと、あなたはわたしの声を聞かれた。” (ヨナ書 2:1、2)

神様に告げる私達のお祈りは何も妨げることができません。ただ、神様が聞かれないお祈りがあるだけです。懇切なお祈り、信仰のお祈り、神様の思いに合うお祈りをすべきです。予言者ヨナのお祈りについて調べてみます。

神様が予言者ヨナにニネベに行って神様の審判を警告して悔い改めを促すよう指示なさいました。当時ニネベはイスラエルに最も脅威的だった異邦国アッシリアの首都でした。ヨナが神様から受けた命令は重大な使命でありました。光栄のある任務でした。“そうしてヨナが”と聖書に記録されてあるべきであったが、不幸にも“しかしヨナが”と記録されました。ヨナはニネベの反対にあるタルシシに逃げようとして港のヨツバに行き、タルシシに航路待機中であつた船の下の階に下って深く眠りました。船が航路して巡航している時に神様が暴風を海の上を下ろされると風波が大きく起きて船が破れる程になりました。この暴風は平凡なことではなく独特であることを見逃した船員達は乗客や船員の中で誰かがある種の大きな罪悪を犯したと判断しました。その人を探すためのくじ引きでヨナがかかりました。ヨナはこの暴風は自分が神様の命令に逆らって逃避の道に上った罪のためであることを自白しました。船員達がヨナを海に投げ入れると直ちに風浪

が静まりました。海に投げられたヨナは大きい魚に飲み込まれました。ヨナは魚のお腹の中でお祈りしました。

ヨナは劇的な状況に処されて却って心を整えてお祈りしました。“わたしは惱みのうちから主に呼ばわると、主はわたしに答えられた。わたしが陰府の腹の中から叫ぶと、あなたはわたしの声を聞かれた。” 苦難を神様により近くなる機会に扱うべきです。そうするためには苦難の中によりお祈りしなければなりません。ヨナは自分がどんな地境にいても神様が自分のお祈りをお聞きなされると信じました。叫んで祈りながら神様の許しと救いを固く信じました。“あなたはわたしを淵の中、海のものに投げ入れられた。大水はわたしをめぐり、あなたの波と大波は皆、わたしの上を越えて行った。わたしは言った、『わたしはあなたの前から追われてしまった。どうして再びあなたの聖なる宮を望みえようか』。” これは厚かましい態度ではありません。悔い改める時は神様の哀れみを期待しても良いです。“水がわたしをめぐって魂にまでおよび、淵はわたしを取り囲み、海藻は山の根元でわたしの頭にまといつた。わたしは地に下り、地の貫の木はいつもわたしの上にあった。しかしわが神、主よ、あなたはわが命を穴から救いあげられた。” ヨナは既に応答と救いを経験したことにみなして話しました。これが神様に向けた信仰のお祈りです。“わが魂がわたしのうちに弱っているとき、わたしは主をおぼえ、わたしの祈りはあなたに至り、あなたの聖なる宮に達した。” 彼は神様を続いて考えることで否定的な考えが心に居着かないようにしました。

神様がヨナのお祈りをお聞きなさい魚に命じられてヨナを陸地に吐き出すようになさいました。神様の命令に逆らうと暗みの中に処されるが、悔い改めると光明に出ます。お祈りする者を艱難が溶けることができず結局吐き出します。神様はヨナに再び命令を下されました。ヨナは今回は順々にニネベに行って呼びました。今回は“そうしてヨナが”とすることができました。

ヨナは神様から受けた御言葉をその通りに呼びました。ニネベの民達は神様を信じて断食を宣布し、荒布の服を着ました。民達の悔い改めの消息が王に知られると王は積極的に悔い改めることに加えて挙国的な行事になるようにしました。詔書を下り、断食を宣布して、荒布の服を着させ、エホバに励んで叫ぶようにしました。悪行を捨てるようにしました。このような謙遜な悔い改めがあるのでニネベの王とその民は神様の審判を免れるようになり、許しを受けました。

ヨナのお祈りにはとても多様な内容が含まれています。悔い改めました。望みと信仰を披瀝しました。感謝と誓願を表明しました。救いは神様によることを認めました。そしてお祈りの応答を受けた後に自分が当然すべきことを誠実に遂行しました。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」

聖書の御言葉の誤解と偏見



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

イエス様の当時のユダヤ人の社会には、ユダヤ教の中で発生した三種類の宗教宗派がありました。パリサイ派とエッセネ派とサドカイ派です。パリサイ人は政治的なことよりも、宗教的な事に専念しました。エッセネ派の人々は、死海周辺に宗教的共同生活圏を作り、聖書研究に没頭して、隔離と禁慾生活をしました。サドカイ派の人々は、来世と靈魂不滅と復活そして天使の存在を信じていなくて現世の豊かな生活に満足しました。旧約聖書の理解と観念の違いによってこのように、いろいろの分派が生じました。ある日、サドカイ人がイエスを言葉でわなにかけようと試みました。「先生、モーセはこう言っています、『もし、ある人が子がなくて死んだなら、その弟は兄の妻をめぐって、兄のために子をもうけねばならない』。さて、わたしたちのところに七人の兄弟がありました。長男は妻をめぐって死んでしまい、そして子がなかったので、その妻を弟に残しました。次男も三男も、ついに七人とも同じことになりました。最後に、その女も死にました。すると復活の時には、この女は、七人のうちだれの妻なのでしょう。みんながこの女を妻にしたのですが」と質問しました。継代結婚というこの制度は、イスラエルの共同体の中で守ってくる風習でした。これはモーセを通して宣言されたと言って申命記に記録されています。祖先から伝えてくる企業を維持するためにした措置でした。イエスはサドカイ人に答えて「イエスは答えて言われた、あなたがたは聖書も神の力も知らないから、思い違いをしている。その時には、彼らはめとったり、とついたりすることはない。彼らは天にいる御使のようなものである」としました。天国では、天使のように、結婚もすることがないという言葉です。聖書の無知と誤解と偏見ほど有害なのはありません。誤解と偏見の中に信仰に役立たないのがあれば真に、決定的な害を与えることもあります。

まず、信仰に役立たない誤解と偏見について見てみましょう

聖書の言葉を誤って読み取るために生じる誤解があります。また、聖書の内容を正しく知らなくて生じる誤解があります。教会では、飲酒や喫煙を禁じるよう教えています。これに対して異議を提起する人がいます。彼らは聖書に飲酒をやめという言葉がどこにあるのかどうしても酒に酔ってないという一節があるだけだと主張します。エペソ人への手紙 5章 18節に「酒に酔ってはいけません。それは亂行のもとである。むしろ御霊に満たされて、」と記録されています。

しかし、箴言 23 章に、このような言葉があります。「災ある者はだれか、憂いある者はだれか、争いをする者はだれか、煩いある者はだれか、ゆえなく傷をうける者はだれか、赤い目をしている者はだれか、酒に夜をふかす者、行って、混ぜ合わせた酒を味わう者である。酒はあかく、杯の中にあわだち、なめらかにくだる、あなたはこれを見てはならない。これはついに、へびのようにかみ、まむしのように刺す。あなたの目は怪しいものを見、あなたの心は偽りを言う。あなたは海の中に寝ている人のように、帆柱の上に寝ている人ようになる。あなたは言う、「人がわたしを撃ったが、わたしは痛くはなかった。わたしを、たたいたが、わたしは何も覚えはない。いつわたしはさめるのか、また酒を求めよう」(箴言 23: 29~35)。ここでは、「お酒を見ることもなかれ」としました。喫煙を禁じるとは聖書の一節がどこにあるのかという人々がいます。聖書が記録された当時には、タバコがなかったので、該当する節がありません。しかし、タバコは 7,000 種類以上の化学物質が含まれており、そのうちの 100 種類が持つ毒性物質であり、70 種類の持つ様々な癌を誘発する原因であるのが明らかになりました。喫煙による被害が非常に大きいことを今知らない人がいないです。聖書にタバコを禁じるとは直接言葉はありませんが、タバコを、禁じなければならない根本的な理由が記録されています。

「あなたがたは知らないのか、自分のからだは、神から受けて自分の内に宿っている聖霊の宮であって、あなたがたは、もはや自分自身のものではないのである。あなたがたは、代償を拂って買いとられたのだ。それだから、自分のからだをもって、神の栄光をあらわしなさい」(コリント人への第一の手紙 6:19, 20)としました。私たちの体は、神から受けたものであり、聖霊の聖殿であるのを考えると、喫煙で体を損なうことをするのはふさわしくありません。

自然界の神秘をよく見せてくれる映像なのを本質的にクリスチャンではない宗派に属している人が作った映像の一部を使用してもよいかを尋ねる人がいました。その映像に著作権が属している宗教団体、著作者、教理を知らせる象徴や字幕が刻まれていないことで、著作権に抵触しないものでしたらその2つの点に問題がなければ使用してもできます。さらに、撮影された対象が創造主の神が造られた自然物だからです。私たちが使用しているすべてのものに非クリスチャンが関連していないのではありません。聖書的な信仰と倫理に反することを行なう人と全く関係ない場合は、世界とは別れる道しかありません。

使徒パウロは、コリントの信徒へ送る手紙に記録したのを「それは、この世の不品行な者、欲な者、略奪をする者、偶像禮拜をする者などと全然交際してはいけないう、言ったのではない。もしそうだとしたら、あなたがたはこの世から出て行かねばならないことになる」(コリント人への第一の手紙 5:10)しました。ただし世の中に住んでいる間、私たちが守るべきことは、未信者や他の信仰を持つ者たちの非聖書的な信仰と教理と倫理に同調したり、これを収容することがあればいけないし、これを厳格に排撃するべきです。

次は、信仰に深刻で、決定的に害を与える誤解と偏見について見てみましょう。

救いの道理を歪曲する誤解と偏見を見てみようと思います。ここで信仰と行いについてのみ説明します。救いを得るために、必ず知っておくべき二つの単語があります。「信仰」と「行ない」です。

私たちは、「救いに関連する信仰と行ない」が何を意味するかを聖書の通り明らかに知ることです。「信仰のない行ない」は義され、救われるために無価値で無益です。神様が与えられる救いは人の善行、儀式、努力の値から与えられることではありません。イエス・キリストの贖いの恵みを信じるすべての人に与え、神の贈り物です。「イエス・キリストだけが私の救世主です」という信仰を持ったなければなりません。このような信仰がないすべての行為は、救われるために無用です。

また、「行ないがない信仰」やはり義となる、救われるために無価値で無益です。ここでいう行ないと信仰による行うことを意味します。どんな迫害や誘惑や試練が来ても、信仰を守ることを指して「行ないの信仰」といいます。イエス様が私たちの罪を贖ったこと信じる迫害、誘惑、苦難が迫って来るにも、この信仰を裏切る人の信仰は「知的同意」に過ぎません。

「わたしの兄弟たちよ、ある人が自分には信仰があると稱していても、もし行いがなかったら、なんの役に立つか。その信仰は彼を救うことができるか。ある兄弟または姉妹が裸でいて、その日の食物にもこと欠いている場合、あなたがたのうち、だれかが、「安らかに行きなさい。暖まって、食べ飽きなさい」と言うだけで、そのからだに必要なものを何ひとつ與えなかったとしたら、なんの役に立つか。信仰も、それと同様に、行いを伴わなければ、それだけでは死んだものである」(ヤコブの手紙 2: 14~17)この言葉を、信仰があっても、慈善救済行為がなければ、死んだ信仰という誤解する方がいます。この言葉の意味は、寒さで震える人に「暖かい服を着せなさい。」と言葉だけで、飢えた人に、「お腹いっぱい飲みなさい」と言葉だけするのが実質がない慈善であるように言うだけで、行なわない信仰は死んだ信仰という意味です。

「わたしたちの父祖 アブラハムは、その子イサクを祭壇にささげた時、行いによって義とされたのではなかったか。あなたが知っているとおき、彼においては、信仰が行いと共に働き、その行いによって信仰が全うされ」(ヤコブの手紙 2: 21, 22)しました。アブラハムはイサクを全焼のいけにえとしてささげなさいと神の命令に異議を提起したり、躊躇することなく従順行動をとりました。主なる神への信仰がこのような行動を断行するようにしました。

「同じように、かの遊女ラハブでさえも、使者たちをもてなし、彼らを別な道から送り出した時、行いによって義とされたではないか。靈魂のないからだだが死んだものであると同様に、行いのない信仰も死んだものなのである」(ヤコブの手紙 2: 25, 26)しました。遊女ラハブは、イスラエル人の斥候を保護したことが発覚したら、破滅を当たられるのを覚悟して斥候を保護する行動をしました。神への信仰がこのような行動を断行しました。これらの信仰は、言葉だけの信仰ではなく、その信仰によってどんな犠牲も喜んで受け入れる信仰でした。「行ないがある信仰」という言葉で「行ない」とは、この種類の行うことを意味します。信仰による行ないを指します。

この信仰を持った聖徒はどのようなことがあっても、救いの恵みと真理に反する教えを受け入れません。信仰を守るためには、どのような迫害も耐えます。どんな誘惑にも退けられます。どんな苦難も乗り越えます。聖徒の皆さんは信仰に深刻で決定的な害を与える誤解と偏見がないほか、信仰に役立たない誤解と偏見さえ持たないように御言葉と聖霊様の導きを受けてください。